

2021年度第2四半期決算

2021年11月5日

三菱商事株式会社

(将来に関する記述等についてのご注意)

- ・ 本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。
- ・ また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報、および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願いいたします。
- ・ 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

(本資料における留意点について)

- ・ 本資料における「連結純利益」は、非支配持分を除く、当社の所有者に帰属する当期純利益の金額を表示しています。

2021年度第2四半期決算

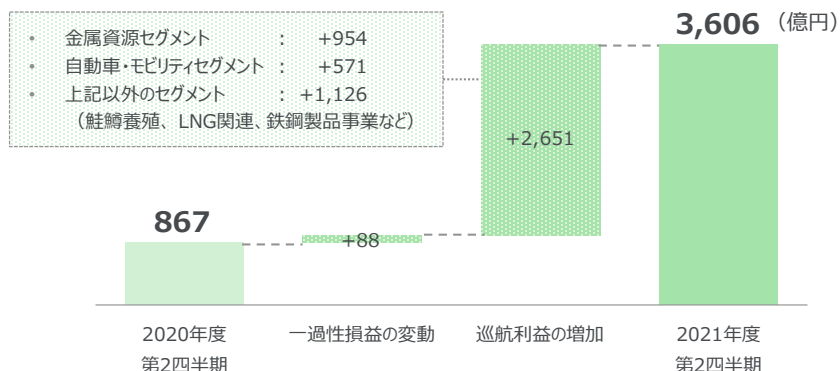
	2020年度 第2四半期実績	2021年度 第2四半期実績	増減	2021年度 業績見通し <修正後>	進捗率
連結純利益	867億円	3,606億円	+2,739億円	7,400億円	49%
事業系	530億円	2,186億円	+1,656億円	4,300億円	51%
市況系*	265億円	1,411億円	+1,146億円	3,350億円	42%

*「市況系」は天然ガスセグメントの内、北米シェールガス及びE&P、金属資源セグメントの内、トレーディング・インキュベーション関連以外、産業インフラセグメントの内、船舶（一般商船）を含めています。

前年同期比の増減

連結純利益は前年同期比+2,739億円の増益

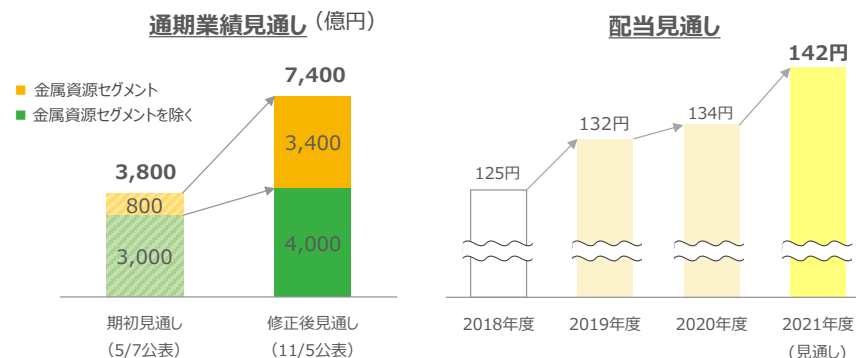
- ✓ 新型コロナウイルスによる影響を強く受けた前年同期から幅広い分野で需要が回復し、資源価格も上昇した結果、第2四半期として過去最高益を更新。
- ✓ 金属資源、自動車・モビリティの両セグメントに加え、それ以外のセグメントにおいても、鮭鱒養殖、LNG関連、鉄鋼製品などの多くの分野で事業環境の改善を着実に利益に結び付けた。



業績見通しおよび配当見通し

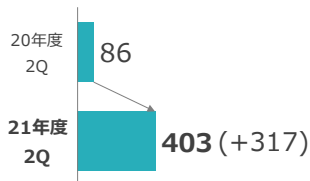
通期業績見通しを過去最高益となる7,400億円に上方修正

- ✓ 金属資源セグメントにおける資源価格の上昇に加え、自動車関連事業やLNG関連事業をはじめとする各事業の堅調な業績などを踏まえ、10セグメント中、8セグメントで上方修正。
 - ✓ 修正後見通しには下振れリスクを織込み。
- ### 1株当たり配当見通しは8円増配の142円に修正
- ✓ 上方修正に合わせて、5/7公表の期初見通し134円から8円増配。

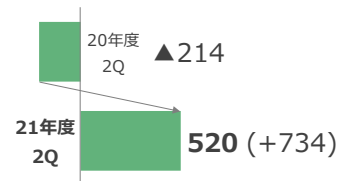


セグメント別の状況

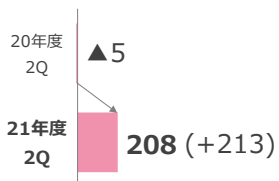
連結純利益： 2020年度 第2四半期 867 (億円)
2021年度 第2四半期 3,606 (+2,739 : 前年同期比)



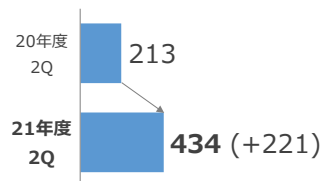
天然ガス
LNG関連事業における受取配当金や北米シェールガス事業における持分利益の改善など



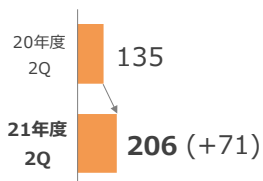
自動車・モビリティ
前年同期に計上した三菱自動車工業における一過性損失の反動に加え、三菱自動車工業やアジア自動車事業における持分利益の増加など



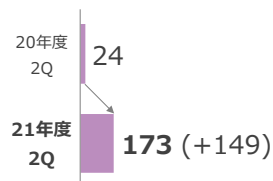
総合素材
鉄鋼製品事業や北米樹脂建材事業における持分利益の増加など



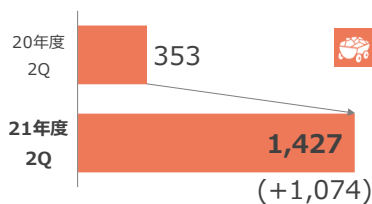
食品産業
鮭鱒養殖事業における持分利益の改善など



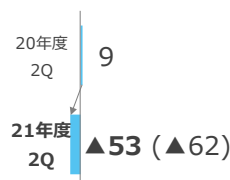
石油・化学ソリューション
LPG事業や石油化学事業における持分利益の増加など



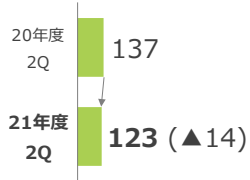
コンシューマー産業
CVS事業やタイヤ関連事業における持分利益の増加など



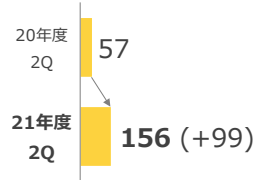
金属資源
豪州原料炭事業における市況上昇による影響や鉄鉱石事業における持分利益の増加、及び銅事業における受取配当金の増加など



電力ソリューション
発電資産等の売却益の減少や海外電力事業における持分利益の減少など

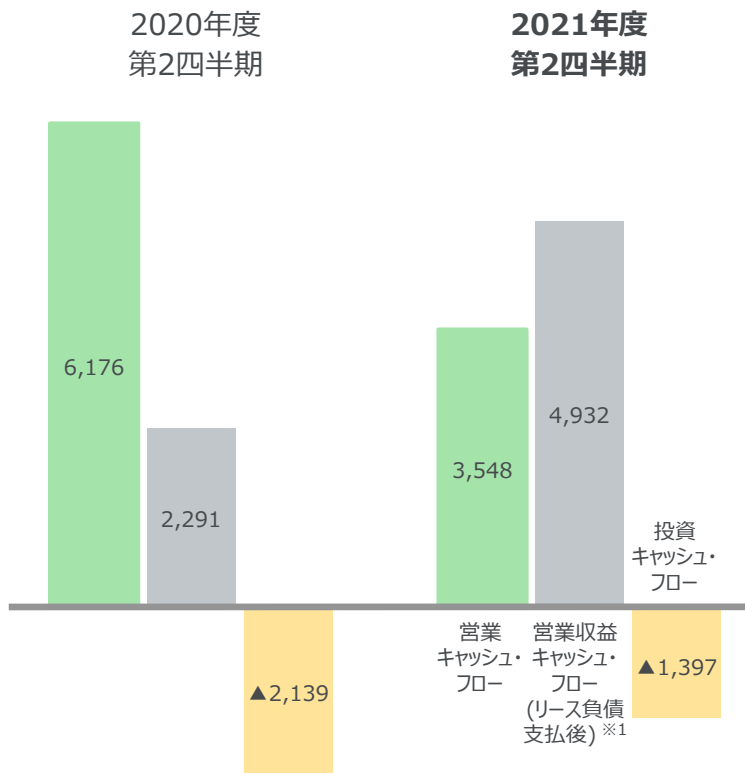


産業インフラ
一般商船事業における持分利益増加の一方、千代田化工建設における一過性損失など



複合都市開発
航空機リース事業会社売却方針に伴う減損損失等の一方、ファンド評価益の増加やリース事業における統合関連利益など

キャッシュ・フローの状況



キャッシュ・フローの主な内訳

(億円)

		営業収益CF (リース負債支払後)	投資CF			調整後FCF
			新規・更新投資	売却及び回収	ネット	
参考	2019年度 (通期)	6,721	▲10,514	5,507	▲5,007	1,714
	2020年度 (通期)	6,252	▲8,034	4,461	▲3,573	2,679
2021年度 第2四半期		4,932	▲3,331	1,934	▲1,397	3,535

2021年度第2四半期の投資キャッシュ・フローの主な内容

新規・更新投資	売却及び回収
<ul style="list-style-type: none"> ・豪州原料炭事業（金属資源） ・銅事業（金属資源） ・北米不動産事業（複合都市開発） ・LNG関連事業（天然ガス） ・欧州総合エネルギー事業（電力ソリューション） ・CVS事業（コンシューマー産業） 	<ul style="list-style-type: none"> ・北米シェールガス事業（天然ガス） ・北米不動産事業（複合都市開発）

<調整後フリーキャッシュ・フロー※2>

+152

+3,535

※1 営業収益キャッシュ・フロー（リース負債支払後）

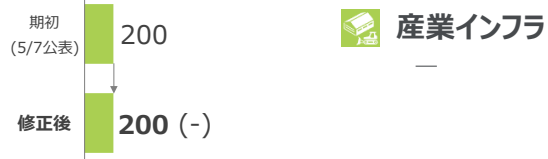
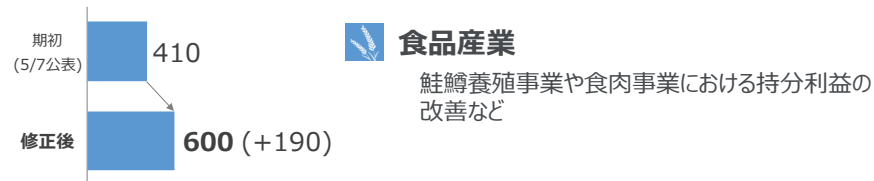
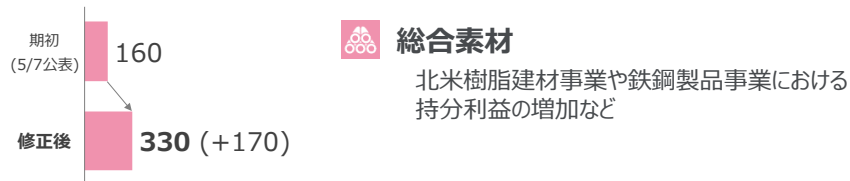
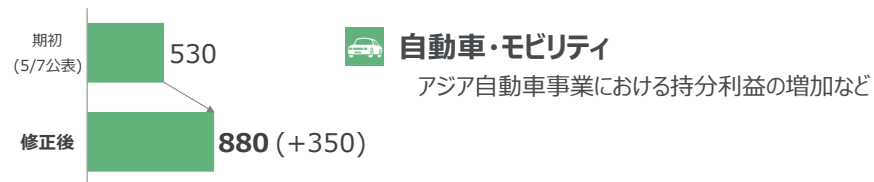
運転資金の増減影響を控除した営業キャッシュ・フロー（連結純利益（非支配持分を含む）－減価償却費－投資活動関連損益－未配当の持分法損益－貸倒費用等－繰延税金）にリース負債の支払額を反映したものの

※2 調整後フリーキャッシュ・フロー

営業収益キャッシュ・フロー（リース負債支払後）と投資キャッシュ・フローの合計

セグメント別の2021年度業績見通し

連結純利益： 期初見通し (5/7公表) 3,800 (億円)
修正後見通し (11/5公表) 7,400 (+3,600 : 期初見通し比)



【参考】市況の状況

為替・商品・金利市況の状況

	2021年度 業績見通し※ ＜修正前＞	2021年度 業績見通し※ ＜修正後＞	増減	2021年度 第2四半期 ＜実績＞	2021年度業績見通しに対する損益インパクト [油価・銅地金については、生産数量等により大きく変動する 可能性があるため、現時点での試算に基づく参考値を記載]
為替 (円/US\$)	108.00	109.91 (下期：110.00)	+1.91	109.81	1円の円安/円高につき年間35億円の増益/減益インパクト。
油価 (ドバイ) (US\$/BBL)	54	60	+6	52	US\$1/BBLの上昇/下落につき年間25億円の増益/減益インパクト。 連結会社との決算期の違いやLNG販売価格への油価反映のタイムラグ等による当社の実績への影響に鑑み、6か月前の油価（通期：10～9月平均）を記載している。 ただし、油価の変動以外にも、配当性向、為替要因、生産・販売数量等の複数の影響も受けるため、油価のみで単純に決定されるものではない。
銅地金 (US\$/MT) [US¢/lb]	7,826 [355]	9,017 [409] (下期：[384])	+1,191 [+54]	9,531 [432]	US\$100/MTの上昇/下落につき年間13億円の増益/減益インパクト（US¢ 10/lbの上昇/下落につき年間28億円の増益/減益インパクト）。 ただし、銅の価格変動以外にも、粗鉱品位、生産・操業状況、再投資計画（設備投資）等の要素からの影響も受けるため、銅の価格のみで単純に決定されるものではない。
円金利 (%) TIBOR 3M	0.10	0.09	▲0.01	0.06	取引利益や投資利益により金利上昇の影響は相殺される部分が相当あるが、金利上昇が急である場合には一時的に影響を受ける。
US\$金利 (%) LIBOR 3M	0.30	0.17	▲0.13	0.14	

※ 業績見通しは、通期平均価格を記載している。